

竹村文彦先生 業績一覧

1. 学術論文

- 『ルカノーラ伯爵』論, 『言語・文化研究』第1号, 東京外国語大学大学院外国語学研究所, 1983年, pp.29-37.
- 「ケベード『ならず者の生涯』における〈見かけ〉と〈内実〉の文体的表現について」, 『アカデミア』文学・語学編第44号, 南山大学, 1988年1月, pp.145-169.
- 「ケベード『騙り師の生涯』における人間の贖物性」, 『アカデミア』文学・語学編第46号, 南山大学, 1989年1月, pp.115-140.
- 『『ラサリーリョ』と『かたり師』における主人公と話者の〈視点〉」, 『イスパニカ』第34号, 日本イスパニヤ学会, 1990年12月, pp.183-195.
- 「ボルヘスの中のダンテ——訳者解説」, ホルヘ・ルイス・ボルヘス『ボルヘスの「神曲」講義』(竹村文彦訳) 所収, 国書刊行会, 2001年5月, pp.167-203.
- 「オクタビオ・パス——詩人の軌跡」, 『詩と思想』第264号第3巻, 土曜美術社出版販売, 2008年7月, pp.58-63.
- 「『もう一人のボルヘス』の声——後期詩集『群虎黄金』をめぐる」, 『詩と思想』第286号第3巻, 土曜美術社出版販売, 2010年7月, pp.52-57.
- 『『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』に〈概略〉はあったか?——ロサ・ナバーロ・ドゥランの作品解釈を検証する』, 『ODYSSEUS』第18号, 東京大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 2014年3月, pp.51-69.
- 「怪物の内臓を腑分けする——キューバの独立運動指導者ホセ・マルティの「反米」」, 『ODYSSEUS』第19号, 東京大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 2015年3月, pp.87-111.
- 「春の情景の背後にあるもの——A・マチャードの詩篇《ホセ・マリア・パラシオへ》をめぐる」, 『清泉女子大学人文科学研究紀要』第36号, 清泉女子大学人文科学研究所, 2015年3月, pp.13-31.
- 「A・マチャードの二つの《アルバルゴンサレスの土地》——短篇小説と長篇詩における作中人物の比較」, 『ODYSSEUS』第20号, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 2016年3月, pp.111-126.
- 「怪物の内臓を腑分けする——キューバの独立運動家ホセ・マルティの「反米」」, 遠藤泰生(編)『反米 共生の代償か, 闘争の胎動か』, 東京大学出版会, 2021年, 319p., pp.183-211. (*地域文化研究専攻紀要『ODYSSEUS』の第19号[2015]に同じ題名で発表した論文に加筆修正を加えたもの)

- 「ゴンゴラのソネットを読む——「病をかかえて方々をめぐり、道を見失った」, 『詩と思想』第426号第3巻, 土曜美術社出版販売, 2023年4月, pp. 132-135.

2. 訳書

- オクタビオ・パス『泥の子供たち——ロマン主義からアヴァンギャルドへ』, 水声社, 1994年4月, 283p.
- フランシスコ・デ・ケベード「べてん師ドン・バブロスの生涯」, 『ピカレスク小説名作選』所収, 国書刊行会, 1997年8月, 376p., pp. 109-325.
- ホルヘ・ルイス・ボルヘス『ボルヘスの「神曲」講義』, 国書刊行会, 2001年5月, 203p., pp. 1-164.

3. 口頭発表

- 「『ラサリーリョ』と『かたり師』における主人公と話者の〈視点〉」, 日本イスパニヤ学会第35回大会, 鹿児島経済大学, 1989年12月
- 「ホルヘ・エドワーズ氏の文学」(スペイン語, ホルヘ・エドワーズ氏講演会における講演者の紹介), 東京大学地域文化研究学科ラテンアメリカ分科主催, 東京大学駒場キャンパス, 2002年3月.
- 「メキシコ文化週間・翻訳者が見たオクタビオ・パス」(清水憲男・野谷文昭・林美智代各氏とのシンポジウム), 国際交流基金・メキシコ大使館共催, 上智大学, 2002年10月.
- 「ルベン・ダリーオの詩作品の思想的基盤」, 東京スペイン語文学研究会, 東京大学駒場キャンパス, 2003年4月.
- 「ボルヘスの初期のエッセイにおける Criollismo」, 東京スペイン語文学研究会, 東京大学駒場キャンパス, 2004年3月.
- 「ボルヘスの初期の詩における“arrabal”」, 東京スペイン語文学研究会, 東京大学駒場キャンパス, 2005年5月.
- 「Jose Eustasio Rivera, *La vorágine* における密林と人間」, 東京スペイン語文学研究会, 東京大学駒場キャンパス, 2006年7月.
- 「Jose Asuncion Silva, *De sobremesa* にみられる19世紀末の芸術家像」, 東京スペイン語文学研究会, 東京大学駒場キャンパス, 2007年7月.
- 「紙を超えて広がる教科書」, シンポジウム「東京大学スペイン語教育の挑戦」における発表, 東京大学教養学部スペイン語部会・教養教育開発機構共催, 東京大学駒場キャンパス, 2007年11月.
- 「ホセ・マルティのアメリカ合衆国論——労働問題を中心に」, 東京スペイン語文学研究会, 東京大学駒場キャンパス, 2009年5月.
- 「『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』の作者特定をめぐる近年の研究動向」, 日本イスパニ

ヤ学会第 59 回大会, 上智大学, 2013 年 10 月.

- 「妻レオノールの病と死をめぐる A・マチャードの詩篇を読む」, 2014 年度人文科学研究所研究懇話会第 6 回, 清泉女子大学人文科学研究所, 2014 年 12 月.
- 公開シンポジウム「遠藤泰生(編)『反米 共生の代償か, 闘争の胎動か』合評会」におけるパネル報告へのコメント, 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター (CPAS), オンライン開催, 2020 年 9 月 18 日.
- 「〈グロテスクな世界〉の創出——ケベードのピカレスク小説におけるアンチ・ヒーロー像」, 第 28 回地域文化研究専攻主催公開シンポジウム「ぐうたら, 酔いどれ, ならず者——文学におけるアンチ・ヒーローの系譜」, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, オンライン開催, 2020 年 10 月 31 日.

4. その他の業績

(1) 解説文

- 「スペイン文化小史」, 『ムシカノーヴァ』第 22 巻 9 号 (特集スペインのピアノ音楽), 音楽之友社, 1991 年 9 月, pp. 34-39.
- 「ケベード『べてん師ドン・パブロスの生涯』——悪漢小説の誕生と変貌」, 『週刊朝日百科 世界の文学 2』, 朝日新聞社, 1999 年 7 月, pp. 66-67.
- 「ファン・ルイス『よき愛の書』——神の愛か, 世俗の愛か」, 『週刊朝日百科 世界の文学 57』, 朝日新聞社, 2000 年 7 月, pp. 218-219.
- 「オクタビオ・パス著『泥の子供たち』」, 『iichiko』第 76 号, 新曜社, 2002 年 10 月, pp. 60-61.
- 「フランシスコ・デ・ケベード」, 川成洋ほか (編)『スペイン文化事典』, 丸善株式会社, 2011 年 1 月, 884p., pp. 428-429.
- 「セルバンテス作『ドン・キホーテの面白さと新しさ』」, 『地中海の誘惑』, 慶應義塾大学文学部, 2012 年 6 月, 45p., pp. 40-41.
- 「女たらしドン・ファン原型——ティルソ・デ・モリーナ作 (?)『セビーリャの色事師と石の招客』をめぐる」, 「ヨーロッパ近代小説の芽生え——作者不詳『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』をめぐる」, 『地中海の魅力 2012 地中海の誘惑 2013』, 慶應義塾大学文学部, 2014 年 10 月, 98p., pp. 25-27, 89-92.
- 「16, 17 世紀のスペイン文学」, 「諷刺作家ケベード」, 「ケベード『べてん師ドン・パブロスの生涯』——本格的なピカレスク小説」, 「【コラム】アレマン『グスマン・デ・アルファラーチェの生涯』」, 川成洋ほか (編)『ハプスブルク事典』, 丸善株式会社, 2023 年 1 月, 792p., pp. 88-89, 304-307, 408.
- 「ピカレスクロマン伝——人はなぜ「悪」に魅入られるのか」(インタビュー記事), 『歌劇』

10月号(通巻1177号), 宝塚クリエイティブアーツ, 2023年10月, pp. 126-129.

(2) 訳書以外の翻訳

- 「マルメロの陽光 ビクトル・エリセ監督ロング・インタビュー」, 『キネマ旬報』4月上旬号, 1993年, pp. 82-89.
- 「翻訳と解説: ルベン・ダリーオ「カチュール・マンデス論」」, 『ODYSSEUS』第3号, 東京大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 1999年3月, pp. 52-60.
- ホルヘ・ルイス・ボルヘス「フィクションがフィクションの世界を生きるとき」, 『すばる』第21号第9巻(特集: 生誕100年ボルヘスを読む新世紀), 集英社, 1999年9月, pp. 218-221.
- ルベン・ダリーオ詩選(小特集ルベン・ダリーオ没後100年(3)), 『れにくさ』, 7, pp. 136-141, 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 現代文芸論研究室, 2017.

(3) 辞典などの項目執筆

- 桑名一博ほか編集『西和中辞典』(33名との共著), 小学館, 1990年1月, 2065p.
- 増田義郎監修『読んで旅する世界の歴史と文化 スペイン』(8名との共著. 「人物事典——スペインの130人」中77人を執筆), 新潮社, 1992年2月, 363p.
- 池上岑夫ほか監修『スペイン・ポルトガルを知る事典』(「アラス」「ゴイティソーロ」など全7項目執筆), 平凡社, 1992年5月, 472p.
- 安宇植ほか編集『集英社世界文学大事典』全6巻(「ガルシア・ロルカ」「ペレス・ガルドス」など全9項目執筆), 集英社, 1996年10月~1998年1月.
- 大貫隆ほか編集『岩波キリスト教辞典』(「スペインのキリスト教」「アロンソ」など全6項目執筆), 岩波書店, 2002年6月, 1420p.
- 岩波書店辞典編集部編集『岩波世界人名大辞典』(スペイン文学関係の全130項目を新規執筆), 岩波書店, 2013年12月, 3586p.

(4) シンポジウムなどの記録

- 「多言語文学への挑戦——変わりゆくスペイン語文学の領域」(若島正・菅啓次郎両氏をゲストスピーカーとするシンポジウムのコメンテーター), 『イスパニカ』第50号, 日本イスパニヤ学会, 2006年12月, pp. 1-10.
- 「ウェブページ上の教科書支援教材」, 東京大学教養学部スペイン語部会編集『スペイン語教育の挑戦』, 東京大学教養学部スペイン語部会, 2008年7月, 87p., pp. 38-43.
- 「没後十年にオクタビオ・パスを語る」(鼓直ほか3名との座談会記録), 『詩と思想』第264号第3巻, 土曜美術社出版販売, 2008年7月, pp. 18-37.
- 《Octavio Paz visto por sus traductores》(前出2002年10月のシンポジウムの記録), en Aurelio Asiaín (ed.), *Japón en Octavio Paz*, Fondo de Cultura Económica, noviembre de 2014, 346p., pp. 323-

(5) 書評

- オクタビオ・パス『くもり空』（現代企画室，1991年），『週刊読書人』12月6日号，1991年。
- サルバドール・デ・マダリアーガ『ドン・キホーテの心理学』（白水社，1992年），『週刊読書人』3月1日号，1993年。
- 齋藤兆史『英語の作法』（東京大学出版会，2000年），『教養学部報』第440号，東京大学教養学部，2000年7月，p.4.
- 丹治愛編『批評理論』（講談社，2003年），『教養学部報』第472号，東京大学教養学部，2004年2月。
- ホセ・デ・カダルソ著『モロッコ人の手紙 / 鬱夜』（富田広樹訳，現代企画室，2017年），『図書新聞』3314号，2017年，p.4.

(6) 教科書

- 東京大学教養学部スペイン語部会（編）『ディメロ——スペイン語初級』（7名との共著），朝日出版社，2006年4月，106p.
- 「文学の冒険（テキスト1～4）」，東京大学教養学部スペイン語部会（編）『Viajeros』，東京大学出版会，2008年3月，202p., pp.124-135.
- 『初歩のスペイン語（'13）』（坂田幸子との共著），放送大学教育振興会，2013年3月，286p., pp.144-258.
- 東京大学教養学部スペイン語部会（編）『Brújula——スペイン語学習の羅針盤』（11名との共著），朝日出版社，2020年1月，87p.

(7) エッセイ

- 「〈時に沿って〉講読の授業が契機に」，『教養学部報』第350号，東京大学教養学部，1990年7月10日。
- 「スペイン人は不意打ちがお好き——サラマンカの学生寮で暮らして」，『教養学部報』第418号，東京大学教養学部，1998年2月4日。
- 「『牛島信明先生を偲ぶ会』報告」，『会報』第6号，日本イスパニヤ学会，2003年7月15日，pp.3-4.
- 「下山静香氏、スペインとラテンアメリカのピアノ音楽を弾く」，『教養学部報』第560号，東京大学教養学部，2013年11月6日。
- 「何と妙な名字か！」，岩波書店辞書編集部（編）『世界の名前』，岩波書店，2016年，243p., pp.76-78.
- 「ドン・キホーテ——現実の複雑さや流動性」，『東京大学新聞』第2775号，2016年10月14日。

日, p. 3.

- 「初修外国語紹介・スペイン語」, 『東京大学新聞』, 2019年2月25日, p. 5.
- 「セルバンテスの小説に鳴り響く音と音楽」, ドン・キホーテとその時代の音楽 (スパニッシュ・プログレッシヴ・バロック 5). メディオ・レジストロ演奏会公演プログラム, 2022年12月22日.
- 「歓待の心と鷹揚さ——遠藤泰生さんを送る」, 『ODYSSEUS』第25号, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 2021年, pp. 167-169.
- 「国書刊行会創業50周年に寄せて」, 『会報』第30号, 日本イスマニヤ学会, 2023年10月1日, pp. 14-15.
- 「〈駒場をあとに〉日暮れて道遠し」, 『教養学部報』第651号, 東京大学教養学部, 2024年1月9日.